

藤里森林生態系
保全センター

令和2年9月28日

No.94

白神通信

～秋田県側白神山地より

谷藤所長の四方山話

第1回合同パトロール

第2回合同パトロール

藤里駒ヶ岳

オオハンゴンソウの駆除作業

初秋の岩壁を彩る白神山地の準固有種 ツガルミセバヤ（有本）

谷藤所長の四方山話—最近の話題は…—

最近、世の中では話題に事欠かないくらい様々な事件・事故が発生しているように感じるのは私だけでしょうか。昨年より1歳年を重ねたからか新聞やニュースなどの報道欄を多く見るようになったせいかもしれませんが…。

さて、9月の後半に差し掛かり今年度も折返しを迎えています、年の始めからの新型コロナウイルスの流行はいまだに続いていきますし、東北各地ではクマが里山や集落へ出没し農作物などを荒すようになりました。東北地方北部では梅雨明けがはっきりしないまま夏へ突入、全国で豪雨による洪水や土砂災害なども頻発しています。テレビやラジオも台風が発生するたび「今までで最強の台風が発生しました。」と報道し、自然界からの意地悪とも捉えられる事象が毎日のように続いています。各地で大きな災害が無ければ良いのですが。

当センターの状況はというと、業務への新型コロナウイルスの影響については前回号で触れましたので省略しますが、つい先日までは「連日続く猛烈な残暑」に“うんざり”していました。過去には9月、いや8月の旧盆が過ぎれば東北の夕方は涼しかったような気がします、今年は9月に入っても熱帯夜が頻発します。テレビや新聞では「暑い日には運動を控えエアコンの効いたところすごしてください。」と流れますが、林野巡視の際はエアコンの効いた山などはありませんから「熱中症」には十分気をつけていました。特に対策として水分補給に気を遣っており、「喉が渴く前に水分補給をしましょう。喉が渴いたときは熱中症の始まりです。」にならぬよう、体内に吸収されやすいよう頻りにチビチビと水分補給をし、滝のような汗を流します。しかし、そのためか摂取量が排出量を上回っていたようで、たまに顔を合せる人から「山に行っていないな。」と言われ少々がっかりしています。

ここ数日は来訪者が少ない今年の白神山地では秋が始まっているようで、少し肌寒い日がたびたび訪れるようになってきました。ナナカマドの実も赤みを増してきましたし、山の木々の葉も緑から少しずつ色が変わってきています。涼しいなかで紅葉を眺めながら、空気がおいしく感じられる白神の登山シーズンももう目の前です。

背景写真：第2回合同パトロール

粕毛川源流部・三蓋沢コースを歩く谷藤所長

第1回合同パトロール

〈粕毛本流コース〉
沢に降りてまもなく、
砂防堰堤にぶつかりました。

この後7-で堰堤を登り0-7°で
安全確保してくれる佐藤巡視員

0-7°を渡してもらって
堰堤に取り付き…

第1回秋田県側合同パトロールを7月18日に実施しました。今回は①ニツ森コース(登山道巡視・整備・17名)、②粕毛本流コース(沢巡視・9名)③一ノ又沢コース(沢巡視・7名)の3コースで、総勢33名で巡視を行いました。私の参加した粕毛本流コースは、遺産地域を源流とする粕毛川を上流に向かって巡視します。しかし残念ながら、沢に降りてまもなく、砂防堰堤に行く手を阻まれ先の巡視を断念せざるをえませんでした。

今回私たちはほとんどパトロール出来ませんでしたが、順調に巡視した他コースも含め、たき火等違反行為は見つかりませんでした。次回第2回合同パトロールの大滝コースは、今回のコースの上流にあたる場所なため、気合いを入れて巡視してきます。(小林)(その第2回合同パトロールの報告はP.5へ)

天気には大変恵まれ、休憩時間は泳ぐことも♪

6mほどある堰堤の急な壁を設置してくれた0-7°を頼りになんとか登りましたが…

向こう側に降りるための安全な支点が確保できず、先の巡視を断念して来た方向に降りることに…。

安全に配慮した巡視員の方々のすばらしい技術を見せていただきました。ありがとうございました。

オオハンゴンソウ駆除作業 —素波里園地から世界遺産地域に至る林道沿い—



大きな株を力業で掘り取る男性チーム



小さな株をていねいに引き抜く女性チーム

昨年11月に発行した本誌 No.90で、世界遺産地域まで約1km の地点で見つけたオオハンゴンソウの駆除作業についてご紹介しましたが、今年8月19日に同じ箇所新たに1株花を咲かせているのを確認したため再度掘り取りました。もしや意外と拡散しているのでは…と素波里園地から世界遺産地域に至る小岳・大滝・粕毛林道沿線を調査したところ、上記地点を含め合計7箇所で見つかり、その内2箇所は数十本が群生していました。この程度の状態ならば、これら3路線沿いのオオハンゴンソウの根絶は今なら間に合う！と

意気込み、8月27日と9月1日の2日間を費やして視認出来たオオハンゴンソウを全て駆除しました。

北米原産のオオハンゴンソウは繁殖力が極めて強く、地下茎から他の植物の生長を妨げる物質を出しながら大群落を形成して在来種の生育を脅かすため、全国各地で駆除作業が行われています。環境省の『特定外来生物』に指定されており、生きた状態で移動させることは厳禁です。日当たりの良い湿潤な環境を好むため、世界遺産地域内の溪流沿いや雪崩斜面にひとたび侵入すれば大繁殖することは想像に難くありません。同じような環境に群落を形成しているクロバナヒキオコシが駆逐され、それを食草とする白神山地の希少種・オオゴマシジミも共に絶滅する、などという可能性も考えられます。



駆除したオオハンゴンソウの近くに群生していたクロバナヒキオコシ



オオゴマシジミ

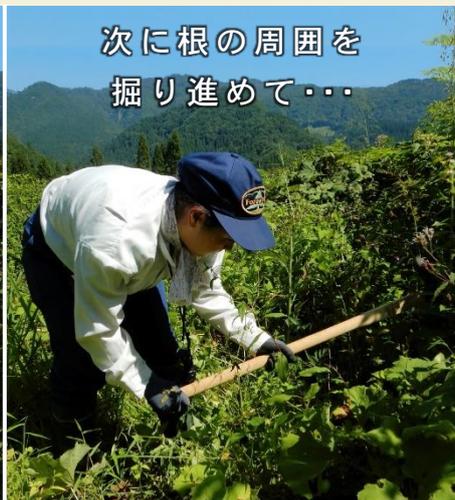
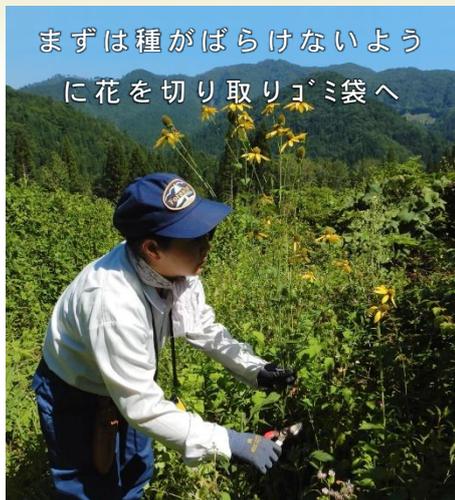
©Minoru Arimoto

オオハンゴンソウの駆除作業で重要なポイントは、全国各地の先行事例で強調されており①根株ごと掘り取ることに加え、②花は切り取りゴミ袋内で枯らすこと(花が咲く前に掘り取るのがベスト)の2点です。特に参考にしたのが青森県の種差海岸で7年間にわたり367万1251本抜き取り(!)数力所で根絶したという成功事例で、日本自然保護協会のHPに詳細なレポ



この内部に種ができています！

この状態でも種がばらけて発芽する可能性がある



ートが掲載されています。『自然保護協会 オオハンゴンソウ』などの検索でヒットしますので、興味のある方は是非ご一読下さい。

駆除作業を進めていく中で、花を付けた大きな株の根元に目をこらすと、花芽の無い小さな株が意外と沢山生えていて厄介でした。葉は独特の形状で触れるとザラザラしており、目が慣れて瞬時に判別出来るようになるそこかしこにあるわあるわ・・・根を切らないように全て抜いた、はずですが、どうしても見落とした新芽や土中でちぎれた根株、花からこぼれた種子や埋土種子などが残っているに違いありません。来年以降は花の咲く前から注視し、若芽を見つけ次第掘り取る

作業を継続していきます。(有本)



第2回合同パトロール

遺産地域から流れ出る沢水の冷たさに
思わず笑ってしまう鈴木さん



令和2年8月22日、世界遺産地域及び周辺地域の粕毛川源流部で今年度2回目となる合同パトロールを実施しました。例年ですと2回目は9月に実施されるのですが、昨年巡視員の方から禁漁区での釣りを重点的に取り締まるべきだとの意見をうけ、今年度は釣りシーズンに合わせ8月に実施、コースも沢を重点的に巡視出来るよう組まれています。参加者は①三蓋沢コース13名②大滝コース13名の26名で、樹木の損傷や釣り、焚き火等の違法行為がないか巡視をしました。各コースとも違法行為等もなく、無事に巡視活動を終えることができました。大滝コースでは、粕毛川まで1時間ほど歩いて

から溪流部に入り、腰まで水に浸かる所では危うく水没しかける参加者もいたり、普段歩き慣れていない所は油断できないと実感しました。今後も巡視活動やマナー啓発活動を継続し、違法行為等が減少するよう努めていきます。(山内)

藤里駒ヶ岳



黒石沢コースの尾根からの
山頂方向



標高 1158mの開けた山頂

尾根歩きが魅力の樺岱コースと、田苗代湿原を通る黒石沢コースがあります。6月に黒石沢コースから登りましたが、なんといっても山頂付近の尾根が爽快です。足元をイワカガミやゴゼンタチバナが彩り、視線を上げると白神山地の雄大なブナ林が広がります。さらに天気良かったため、岩木山や八幡平まで見渡せました。「この尾根をずーっと歩きたい！」なんて思っていたところ、樺岱コースの方が尾根歩きが長いんだとか。次は是非樺岱コースから登ってみたいです。特にこれからのシーズン、紅葉がまた違った白神山地を見せてくれるのが楽しみです。(鈴木)

モス
とった獲物を
串刺しにする、
「はやにえ」で有名



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL: 0185-79-1003 FAX: 0185-79-1005

